セカンドライフ

卓上のカーリング「カーレット」

バリアフリー、ハンディなしで参加

年を取っても体が不自由になっても、ハンディなしで楽しめるスポーツだ。テーブルの上で行うカーリングのような競技で、その名は「カーレット」。シニア世代が考案して、誕生から一年。今年は拡大元年になるか。（三浦耕喜）

考案者は、東京都文京区のソフトエンジニア田辺陽二さん（六四）。大学で保健体育を専攻し、かつてはプロゴルファーを目指した体育会系だが、シニア世代に近づき、お年寄りがハンディなしで参加できるスポーツがあまりないことに気付いた。

「シニアや障害者向けはあるが、若い人、健常者とは区別され、同じ土俵では競えない。ゴルフにもハンディが」と田辺さん。大学の同級生らと話し合い、思い付いた。カーリングの「カー」と、小さいを意味する英語の接尾語「レット」でカーレットと名付けた。

田辺陽二さん

折り畳み式の机を組み合わせた、縦三・六㍍、幅六十㌢の競技台で行われる。ウレタンマットに化繊布を敷いた上に、花こう岩製で重さ三百㌘のストーンを滑らせる。ストーンをぶつけて敵のストーンを押し出したり、進路を邪魔したり。最終的にどちらのストーンが的の中心に近いかで得点を争うのは、カーリングと同じだ。

バリアフリーの新スポーツ「カーレット」＝東京都国立市の一橋大学で

力いらず爽快、ヒットの予感

立ったままでも、座ったままでも参加可能。ビリヤードのように壁にぶつけての技もある。相手の次の手をどう読むかも面白い。「幼稚園児の孫と八十歳すぎのおじいちゃんが一緒に争うことも。誰にもハンディはない」と田辺さんは言う。

足に障害があり、車いすを使う千葉県習志野市の会社員、金子浩司さん（四七）も愛好者。「車いすの自分と健常者が本気で勝負するのが楽しい」と話す。

田辺さんは昨年四月にNPO法人「カーレットジャパン協会」（東京都台東区）を設立し、同年六月に三十六人が参加した台東区大会を開催。それを含め四回の競技会を開いた。今年七月十三日に神奈川県開成町で予定の次回大会には、東京、千葉などからの参加も含め七十人が出場する。十月二十七日に千葉大会を、十二月二十一日には初の大学選手権も企画している。

学術的なアプローチも始まった。一橋大学では本年度、「コミュニティ政策論」の授業にカーレットを採用した。担当の同大大学院社会学研究科の林大樹教授は「スポーツには人々を結び付ける重要な役割があるが、実際にはバリアフリーなスポーツはあまりなかった。地域づくり、街づくりへの応用も模索したい」と話す。

記者もカーレットを体験してみた。立ったままでも、いすに座ってでも、ストーンを滑らせる「ショット」は容易で、さほど力もいらない。

三人対三人で対戦し、一人二投ずつ交互にショットする。敵味方で一回りを「一エンド」として得点を数え、また最初からショット。これを八エンド繰り返す。エンドの最後にストーンがどんな位置にあるかを考えながら、何度もショットすると、爽快な汗がにじむ。手軽に体のハンディを問わずに楽しめる。ヒットの予感がした。

カーレットは一式二十五万円（税込み）。これまでに福祉団体や教育機関などに納入。同協会本部で随時、体験できる。同協会＝電03（3835）3251、ホームページ www.cja.sactown.jp＝まで。

はぐくむ

カーレット

ハンディなしの新スポーツ

シニア、障害者も同じ土俵で

バリアフリーの新スポーツ「カーレット」＝東京都国立市の一橋大で

年を取っても体が不自由になっても、ハンディなしで楽しめるスポーツだ。テーブルの上で行うカーリングのような競技で、その名は「カーレット」。子どもから大人まで、健常者とともに楽しめるのも特徴だ。誕生から一年、今年は〝拡大元年〟になるか。（三浦耕喜）

考案者は、東京都文京区のソフトエンジニア、田辺陽二さん（六四）。大学で保健体育を専攻し、かつてはプロゴルファーを目指した体育会系だが、シニア世代に近づき、お年寄りがハンディなしで参加できるスポーツが、あまりないことに気付いた。

「若い人、健常者とは区別され、同じ土俵では競えない。ゴルフにもハンディがある」と田辺さん。大学の同級生らと話し合い、思い付いた。カーリングの「カー」と、小さいを意味する英語の接尾語「レット」でカーレットと名付けた。

カーレットを考案した田辺陽二さん

折り畳み式の机を組み合わせた縦三・六㍍、幅六十㌢の競技台で行う。ウレタンマットに化繊布を敷いた上に、花こう岩製で重さ三百㌘のストーンを滑らせる。ストーンをぶつけて敵のストーンを押し出したり、進路を邪魔したり。最終的にどちらのストーンが的の中心に近いかで得点を争うのは、カーリングと同じだ。

机の上でカーリング

立ったままでも、座ったままでも参加可能。ビリヤードのように壁にぶつけての技もある。相手の次の手をどう読むかも面白い。「幼稚園児の孫と、八十歳すぎのおじいちゃんが一緒に争うことも。誰にもハンディはない」と田辺さんは言う。

足に障害があり、車いすを使う千葉県習志野市の会社員、金子浩司さん（四七）も愛好者。「車いすの自分と健常者が、本気で勝負するのが楽しい」と話す。

◇

田辺さんは昨年四月、NPO法人「カーレットジャパン協会」（東京都台東区）を設立し、同年六月には約四十人が参加した台東区大会を開催。それを含め、四回の競技会を開いた。今月十三日に神奈川県開成町で予定する大会には東京、千葉などから七十人が出場する。十月二十七日に千葉大会、十二月二十一日には初の大学選手権も企画している。

学術的なアプローチも始まった。一橋大は本年度、「コミュニティ政策論」の授業にカーレットを採用。担当の同大大学院社会学研究科の林大樹教授は「スポーツには人々を結び付ける重要な役割があるが、実際にバリアフリーなスポーツはあまりなかった。地域づくり、街づくりへの応用も模索したい」と話す。

カーレットは一式二十五万円。これまでに福祉団体や教育機関などに納入。同協会本部で随時、体験できる。問い合わせは同協会＝電03（3835）3251、ホームページwww.c.la.sactown.jp＝へ。

毎日新聞
2013年(平成25年)8月11日(日) 統12版 くらしナビ 8

車椅子も〇K「カーレット」

ニュースポーツ「カーレット」の体験会。まさに卓上のカーリング。初めてでもゲームになると盛り上がる

子どもからお年寄りまで、体力や年齢を問わず、手軽に楽しめる創作競技。4日くらしナビ面に掲載した「ドッヂビー」に続き、今回は「カーリングをベースに、室内の狭い空間でもできるよう工夫したもので、ビリヤードのようなスリルを味わえる。経験者からは「初めてでも夢中になれる」と好評だ。

●高齢者が夢中に

「どっちから投げたらいいと思う?」「こっちからがいいんじゃない」

8月初め、千葉県習志野市で開かれたカーレットの体験会。参加者は競技を見るのも初めての人ばかりだったが、15分程度のルール説明と簡単な練習だけで、さっそくチームに分かれてゲームに臨んでいた。

参加者の一人で同市在住の海老原登子さん(78)は「面白くて興奮しました。これなら、少し障害があったり、体力が落ちていたりしても楽しめるかも」と満足そうだった。

●ストーンを滑らせ

カーレットは、カーリングの「カー」に、「小さい」を意味する「レット」を付けた造語。全長3・60メートル、幅0・60メートルのマットの上に、花ござ台製で手のひらサイズのストーンを滑らせ、的を狙う。

ルールはカーリングとほぼ同じで、3人1組のチームで対戦する。石同士がぶつかってはじける、おはじきのような面白さや、マットのエッジ(縁)にストーンが当たり、ビリヤードのように石が複雑な動きの変化を見せるさまも楽しめる。

発案者は東京都文京区の元ソフトウエア開発会社社長、田辺陽二さん(64)。「ハンディを設けなくても誰でも楽しむことができて、場所もとらない競技はできないか」とスポーツに詳しい大学時代の友人の協力を得て、2011年に完成させた。田辺さんが理事長となり、同年12月にNPO法人カーレットジャパン協会を設立、普及に努めている。

カーレットは座った状態でもプレーできるので、車椅子の人が障害のない人たちと組んで競技することも可能。常設の練習場があり、競技人口約200人とカーレットが盛んな神奈川県開成町で開かれた公式大会では、車椅子の人をふくんだチームが優勝している。

●部活や授業で採用

カーレットは地域の高齢者団体のほか、教育現場にも浸透し始めている。東京都や千葉県の幼稚園や保育所、小中学校で体験会が開かれたり、千葉県では部活動として取り組んだりしている高校もある。東京農工大や一橋大などの大学でも、スポーツ文化の普及や地域のコミュニケーションツールなどとして、授業で取り上げられている。

田辺さんは「能力差や体力差に関係なく楽しめるので、普段は笑わないおばあちゃんが笑顔になり、発達障害の子どもたちが夢中になったという報告もある」と説明している。

カーレットの用具は一式25万円。折りたたんで持ち運びできる。協会では競技の体験会や用具の貸し出しを実施している。問い合わせは協会(☎03・3832S・3251、ホームページwww.cjp.sactown.jp)へ。

【山崎友紀子、写真も】

北海道新聞(夕刊) 2013年(平成25年)9月14日(土曜日)

小型カーリング人気

首都圏 子どもから高齢者まで

東京で誕生し、愛好者を広げつつある新スポーツ「カーレット」。小学生からお年寄りまで体力に関係なく楽しめる=神奈川県開成町

東京で昨年誕生したカーリングの小型版の新スポーツ「カーレット」が首都圏を中心に注目を集めている。ルールはカーリングとほぼ同じで、年齢や体力に関係なく楽しめるのが特徴。関係者は「カーリング王国・北海道の人たちにも体験してほしい」と期待を膨らませている。

カーレットは全長3・6メートル、幅0・60メートルのウレタン製の台を使う。カーリングと同様、花こう岩製で直径6・5センチのストーンを滑らせて的を狙う。1チーム3人が各2回投じ、どれだけ的の中心に近づけたかを競う。

カーリングとは、コースをブラシでこすったりしないのと、ビリヤードのようにストーンを台の縁に当てて軌道を変えることができることなどが違う。台は分割式で持ち運びも可能だ。

テレビ観戦でカーリングに興味を持った東京都の自営業田辺陽二さん(64)が「だれでも気軽に楽しめるようなスポーツに」と発案し、母校の千葉大保健体育科の同級生たちとルールなどを具体化した。昨年4月にはNPO法人・カーレットジャパン協会(東京都台東区)を設立。東京や神奈川県、千葉県などで体験会や競技会を開催し、既に8千人以上が体験した。

協会副理事長の中野実さん(62)が住む神奈川県開成町でも体験会を頻繁に開いており、小学生からお年寄りまでが一緒に楽しんでいる。体験した同町の荻野美稔子さん(78)は「体への負担も少なく、足腰の痛みを忘れるほど熱中しちゃう。孫や曾孫世代と触れ合えるのもうれしい」と笑う。

中野さんは「地域のコミュニケーションづくりに役立つし、カーリング選手の戦術研究にも使ってもらえる」と話している。用具一式の価格は25万円で、1カ月1万円でレンタルもしている。

問い合わせは同協会☎03・3832S・3251(平日のみ)へ。

世界の気温と天気

(AP=共同)

	最高	最低	晴雨
札幌	23	17	曇
仙台	19	12	雨
東京	19	12	雨
名古屋	16	5	雨
大阪	21	2	晴
高松	31	24	雨
福岡	26	20	雨
那覇	22	18	雨
釧路	18	9	雨
マリンワールド			
ードクヨル			
ンスーノ			
ロバロモニホ			
(12日)			
ルドニ			
ウ			
ソ北巻シ			
(13日)			